



火災から命を守る！！ 講習会 一消火、防火の知識と技術を身につけよう一

日時・場所： 6月17日(土) 13:00~15:00 広岡交流センター ホール

主催： 自主防災組織 ひなん支援部会

- 内容
- 1 住宅火災の実態 「検死」からわかる火事の原因や怖さについて
法医学の関係者からお話をうかがいます
 - 2 発見・通報・避難 まず周りに知らせる。 それから-----?
 - 3 出火の原因は？ タバコ、ストーブ、電気器具、こんろ、ローソク・灯明・・・
茨城県の出火原因のトップは？
電気関係のプロにも聞いてみましょう！
 - 4 住宅用防災機器 消火器は、どこに置いてありますか？
使用期限(期間)は 過ぎていませんか？
火災警報器の点検をしていますか？
 - 5 消火栓位置の確認 もし自分の家から火が出た時、どこの消火栓を使って水を
持ってくるかを確かめましょう(実地確認)

(内容(項目)は一部変わるかもしれません)

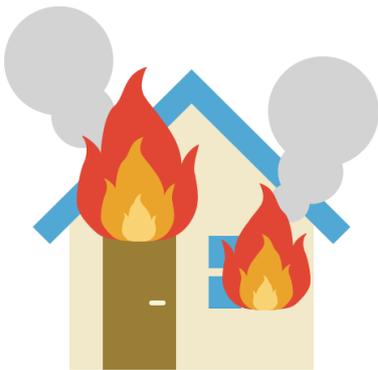
防災用品の展示もあります。身近な、貴重な情報がいっぱいです！ 是非足をお運びください。

最近ではニュータウンでは火災は起きていませんが 世の中災害の一番は火事による住宅の損傷？

逃げ遅れて命を落とすこともありますね。何に注意すれば火事を防ぐことができるでしょう？

----ちょっとした注意や知識があなたやご家族の命を、街を救う事になります-----

6月17日 土曜日の午後 お待ちしています。



災害用井戸掘削工事の様子
(中央公園南側)

災害用井戸の設置工事について(状況報告)

災害用井戸の掘削作業を5月22日に着手し、24日水脈に到達いたしました。

当初、井戸深30mという事で、総会で井戸設置を了承いただきましたが、実際に掘ってみると40mほどまで粘土質シルト層でその後、礫まじり砂層となり42mで水脈に達しました。その後水脈にストレーナーを入れるため4mほど追加掘削を行い、全掘削深は46mで計画より16m深くなってしまいました。

今後ポンプの設置工事と電気工事を行い、6月初旬には井戸を完成させる予定です。

2023年度自主防災組織活動計画について

3月26日に広岡交流センターにて開催された自主防災組織総会において、2023年度の活動計画が下記の通り承認されました。本年度はこの計画に基づいて活動を行ってまいります。

1. 自主防災組織全体

- ① 平常時における防災知識の普及・啓発・広報につとめ、防火・消火技術講習会、救急救命講習会、防災訓練、防災住民意見交換会を開催して災害時に備える。
- ② 9月と3月に防災の日と防災訓練を設定し、災害の記憶を新たにして、各家庭の備蓄品等の確認を行って自助に備えていただく。飲料水確保のためペットボトル水の購入斡旋を行う。
- ③ 非常時のための災害用井戸を自治会と協力して整備を行う。
- ④ 専門学校に災害時の飲用水の提供をお願いする。
- ⑤ 市の自主防災活動支援補助金を利用して防災備品の整備を充実させる。
- ⑥ 自主防災組織規約と防災計画の見直しを行う。
- ⑦ 防災役員会を2ヶ月に1回開催し、防災会議を年2回開催する。
- ⑧ 長期保存がきく食料品の備蓄について検討チームを立ち上げる。

2. ひなん支援部会

- ① 災害時ひなん支援希望者調査を実施（5月予定）し、災害時に備える。
- ② 消火・防火の知識と技術を身につける講習会を開催する。（下記参照）
- ③ 防災訓練で安否確認を担当する。

3. 情報部会

- ① 自主防災活動の広報活動
- ② 防災メールの普及拡大と活用
- ③ 防災について考える会（防災住民意見交換会）の開催

4. 訓練部会

- ① 防災訓練の実施
- ② 訓練未実施の消火栓で放水訓練を実施
- ③ 救急救命講習会の開催
- ④ 防災倉庫収納品の管理者確認と処分方針の相談・決定



参考) 広岡交流センターの災害時利用に関するつくば市の考えについて

3月の自主防災組織総会時に、2022年度活動報告に「交流センターの避難所としての使い方について協議のため、昨年の10月に市役所を訪問した」と書いたことに対し、どのような結果だったのかという質問がありました。

広岡交流センターは市の指定避難所になっていることから、私たちは災害が発生した時、疑いなく交流センターを避難所として使用できると考えてきました。しかし、つくば市（危機管理課）は、「避難所避難」ではなく「自宅避難」が基本的な考えで、つくば市は面積が広いことから、避難所の数を少なくした方が市として対応しやすいということがあるようです。また、市には桜ニュータウンは被害が少ない地域との考えがあり、旧市街地の倒壊リスクが高いところにスタッフを向かわせることになるだろうという事でした。

このため広岡交流センターのような小さな施設は、避難所として開設されることはなさそうで、桜ニュータウンでは、被害が小さい場合や家が潰れていないが余震が怖いという程度であれば、被害が無い近所の家に身を寄せてほしい、大きな被害が出た場合には近隣の公民館等の地区と連携するか、桜南小学校に避難してください、という事でした。

桜ニュータウンの防災員として、あなたを必要としています！

※防災員としてご協力をお願いします。協力いただける方は、下記宛てにお名前と班名、メールアドレス（あれば）をご連絡いただきますようお願いいたします。お待ちしております。（連絡先）副防災長 並木宏之（南8班）または副防災長 田中良典（北10班） 自主防災組織本部 sntbosai-honbu@sakurant.org

自分の命は自分で守る 我々の街桜ニュータウンは住民みんなで作る